

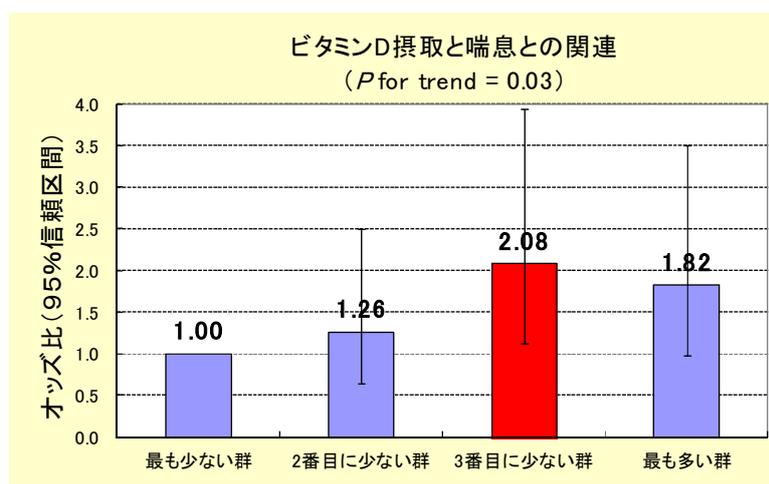
九州・沖縄母子保健研究ベースラインデータの結果 乳製品、カルシウム、ビタミンD摂取とアレルギー性疾患有症率との関連

背景：これまでの乳製品、カルシウム、ビタミンD摂取とアレルギー性疾患との関連に関する疫学研究の結果は一致しておりません。日本人のエビデンスは乏しいので、これらの関連を調べました。

方法：九州・沖縄母子保健研究のベースライン調査に参加した1745名の妊婦さんを対象としました。European Community Respiratory Health Surveyに基づき、過去1年の喘鳴と喘息を定義しました。International Study of Asthma and Allergies in Childhoodに基づき、過去1年のアトピー性皮膚炎とアレルギー性鼻結膜炎を定義しました。年齢、妊娠週、居住地域、子数、喫煙、受動喫煙、アレルギー性疾患の家族歴、家計の年収、教育歴、BMIを交絡因子として補正しました。

結果：過去1年の喘鳴、喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻結膜炎の有症率は各々10.5%、5.5%、13.0%、25.9%でした。総乳製品、牛乳、ヨーグルト、チーズ摂取と喘鳴、喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻結膜炎有症率との間に有意な関連は認めませんでした。カルシウム摂取も喘鳴、喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻結膜炎有症率と有意な関連はありませんでした。ビタミンD摂取と喘息有症率との間に統計学的に有意な正の量-反応関係を認めましたが、第四四分位の補正オッズ比は有意ではありませんでした。ビタミンD摂取と喘鳴、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻結膜炎有症率との間に有意な関連はありませんでした。

結論：日本人若年成人女性において、ビタミンD摂取は喘息有症率の高まりと関連があるのかもしれませんが。



出典： Miyake Y, Tanaka K, Okubo H, Sasaki S, Arakawa M. Dairy food, calcium, and vitamin D intake and prevalence of allergic disorders in pregnant Japanese women. *Int J Tuberc Lung Dis.* 2012; 16: 255-261.